

第 1 回 北海道札幌高等養護学校評議員会 記録

日 時	平成 30 年 6 月 1 日（金） 10:07～12:28	場 所	会議室
学校評議員	P T A 会長 : A (出席)・欠席) 進路・卒後振興会長 : B (出席)・欠席) 株式会社ホクアイ取締役生産本部長 : C (出席)・欠席) 前田東町町会長 : D (出席)・欠席) 就労移行支援事業所あるば : E (出席)・欠席)		
本校参加者	高橋 勝利 (校長)、菅原 靖博 (教頭)、藤吉 正男 (事務長) 矢吹 元子 (主幹教諭)、高田 博文 (教務主任)		
司会・進行 : 教頭 記録 : 高田			

記 録	
1 校長挨拶 10:07～10:13	（１） 評議員の役割の説明 学校の取り組みを外部にオープンにしようというのが発足のきっかけで、平成 12 年 1 月の学校教育法施行規則の改正のもと行われている。学校目標方針、指導計画などのご意見や質問をいただく場である。年間 3 回を予定している。 （２） 学校の近況 2 学年は見学旅行で関西方面に行き、今は現場実習に向けて準備をしている。また、全学年、体育大会の練習に取り組んでいる。 生徒が 1 人行方不明になっている。鉄道の写真を撮りに行ったままだいが経つが、家に戻ってない。警察が探しているが、良い手がかりがない。道立の特別支援学校や近郊の福祉事務所に情報提供している。
2 自己紹介 10:16～10:22	A、B、D、C、E、藤吉、矢吹、高田、菅原の順。 校長は挨拶で自己紹介をしたのでここでは省略。
3 平成 30 年度学校 経営方針について（校 長） 10:24～10:46	別紙資料をもとに、パワーポイントを使って学校経営方針についての説明。 （１） 教育目標 「潤い」と「努力」という言葉がキーワード。開校以来変わっていないが、学習指導要領改訂に伴い、見直しを検討している。 （２） 目指す学校像 合理的配慮の実現と社会に開かれた教育課程の実現。「社会に開かれた」とは、地域と共有すること（例として、人材活用、地域のセンター的機能、苗の販売やビルクリーニングなどの地域への貢献など）。 （３） 目指す生徒像、教員像 自己理解、他者理解のできる生徒（発達障がいが多くなってきており、自分をコン

	トロールできる力が大事)。 自信をもてる生徒（小、中学校の頃に集団に入れなかったり友人関係のトラブルがあり自信が失われている生徒が多いので、得意分野を見付け自信を付くようにすることが大事)。 主体的、対話的な深い学びができる生徒（新学習指導要領にも列記されている)。 いじめを防止し、体罰のない人権尊重する職員 保護者の考えなどを受け止める職員 青年前期の生徒の心情を理解できる職員 (4) 教育方針 新学習指導要領に基づいて、指導計画を作成していく。 (5) 経営方針 社会の変化、動向をとらえた教育活動、専門性に基づいた積極的な経営参画、適正な財務会計。 (6) 平成 30 年度の重点 生徒一人一人の多様性に気付き、生かし、発揮できるようにする生徒指導・学習指導の充実について、自己を理解し、得意分野をもって胸をはって生きる生徒指導をしていく。 不確実な社会に向け、多様性を認め合い、様々な課題に対して互いに智恵を出し、「納得解」を導き出すの力の育成をする。 質問 (B) 学習指導要領解説書は購入できるのですか？ (校長) 一般の書店で購入できます。
4 本校の学校概要 (主幹教諭) 10:50～11:03	別紙資料と学校要覧（5 ページ）参照。 (1) 学校の沿革、生徒の実態、学科について。 重軽解消の経緯と現状について（クラスの中で能力の開きが大きくなったので、習熟度別学習を増やした。一方、生徒同士の差別がなくなった）。 教科について（横のつながり、深い学び、実生活に結びつく内容）。 平成 31 年度入学生から新しい教育課程になること（情報、外国語が隔週から週 1 時間）。 質問 (B) 1 学年は窯業科が 1 クラスしかないが、入りたい生徒が減ったのか。 (主幹) 配置計画に基づいて決めている。今年度は受検者が少なかった。 (教頭) 定員は道教委が決めている。 (校長) 地域差はあるが、間口は全部埋まっではない。新設校が増えたということ

5 授業参観（教務主任） 11:05～11:55	もある。 （教頭）普通高校の通級や通信制高校などに分散しているものもある。 家庭総合科、クリーニング科、農業科（廊下での説明）、木工科、窯業科、3年産業科B組情報、3年産業科A組外国語を見学。
6 意見交換 11:55～12:20	（B）主体的に学ぶ、思考力、自己理解などは、企業に求められていることと全く同じ。日本の方向性がそのようになっている。素晴らしい方針だと思う。 （教頭）企業の立場としてCさんに意見を伺いたい。新採用者は昔と今は違うのか。 （C）今年、新卒が6名入ったが、ここ1～2年の傾向としては定着が良くない。入社するまでは頑張る意気込みがあるが、入社してから他で条件が良い会社があると目移りしてしまう。2～3年経つと慣れて自分の主張が強くなってしまふ。生徒が、自分がどのような仕事合っているのか、いろいろなところを見学して体験できれば良い。企業訪問、見学はいろいろな会社が受け入れるべきだと思う。 （校長）生徒が一番どの道が良いのか（マッチング）、発見する教育内容が大事。今後いろいろな選択肢を作って決めていける教育内容が望まれる。 （教頭）この件については、進路指導部とも連携して考えていく。 （E）職業的自立について、生徒に合わせて進路を追求していると感じるが、「就職していれば自立している」、逆に言えば「就職していないと自立していない」、と考え、福祉的就労を間違えて捉えてしまうケースがある。いろいろな自立の仕方があると思う。自己理解、生きる力を養っていくのが重要。働き方が多様化しているので。 （校長）今の小学生が働くようになる頃は、今ある3割の職業しか残っていないという話もある。いろいろな働き方があるが、納得解を得られる力の育成が教育の目的である。 （E）生活科がなくなり、生徒の偏見が払しょくされたようだが、保護者、特に障がいの程度が重い子の保護者から何か要望が出ることはあるか。 （主幹）直接耳には届いていないが、保護者と合意形成を図りながらやっている。例えば、連絡ノートを書いてほしいというニーズがあれば、それにお応えしている。 （教頭）昔は生活科という制度がなかったので、従来の形に戻った。 （E）障害の程度が重い軽いは周囲が決めていること。学校と同様、施設の中でもいろいろな障がいの人があるので、対応が難しいと感じる。 （教頭）既設科の保護者と生活科の保護者と話をしたことがない、など、生活科が解消され、保護者同士の壁もなくなってきたと感じる。 授業見学の感想 （D）地域として手伝えることがあればいつでも言ってほしい。 （A）活き活きとやっている。昨年度の1年生も成長していると感じる。自分で説明をできるのがよい。リーダーシップを取っている生徒もいた。

7 今後の学校評議会 の開催予定について（教頭） 12:21～12:24 8 閉会式（校長） 12:25～12:28	（C）参考になった。卒業生に自分の会社に来ていただきたい。 （B）森林焼を家でも使っているが、良い製品である。みんな頑張っていて良かった。 （E）自分の施設でも木工科のベンチを使っているが、手作りでしっかりしていて、素晴らしい。たくさんの人が見るところに置いていて、シンボリックな存在になっている。原価で売るのはもったいない。利益を付ければ、原価計算の勉強にもなるし、人件費の勉強にもなる。 （教頭）その話題は過去の学校評議会でも出された。現状をふまえ、再度検討する。出た意見は取り組めるところは取り組んでいきたいと考えている。 次回は11月下旬と考えている。学校評価の項目についての検討、進路指導の話、寄宿舎の見学、センター的役割の実践報告の予定。 3回目は、2月。生徒会との懇談などの予定。 製品販売の利益については、今金養護学校が学校で会社を作るという実践例もあるので、検討の余地がある。 謝辞を述べ、閉会。 以上
--	--